

SCI Agritech @JICA筑波 NEWS LETTER

Vol.02
2020年06月号

稲作水管理分野におけるDX/ICT活用トライアルがいよいよスタート!

2020年6月より、「クラウド農業モニタリングシステムを用いた農業ICT活用人材育成~水稻栽培~」の活動が本格スタート。6月2日にJICA筑波にて、使用機器である“水田farmo”の設置作業を行いました。当日は、機器の提供業者である株式会社ぶらんこの田中貴也氏による説明の下、JICA筑波職員、圃場管理委託会社（川上農場）、稲作研修生が現地で参加しました。弊社からは、茨城県の移動規制のため荒川部長のみの参加。この状況を利用し、遠隔から現場作業状況の様子がどの程度の把握が可能かを試行すべく、Teamsを利用して当社社員3名、JICA筑波職員1名が、各自宅からリモートで参加しました。

今後は水田farmoを用い月2,3回のモニタリングを行い、本機器の有用性と海外事業での応用性を検証すると共に、社内・社外における農業ICT活用人材育成を図ることを目標としています。また、遠隔通信システムの使用により国内・海外への研修実施に向けた取組みを実施していく予定です。今回は、トライアルとして設置作業へのリモート参加を実施しましたが、よりスムーズで効果的なやり取りを行うための改善点も見えてきました。



▲Teams画面（機器設置の様子）

▲タブレットによる通信の試行



▲給水ゲート設置の様子



▲設置後の水位計

水田farmo設置トライアル概要

- 1) 施設：JICA筑波の水田1（約15m×30m）
- 2) 期間：2020年6月初旬～9月末
- 3) 機材：
 - ①ファーモ・クラウド農業モニタリングシステム（水稻栽培用）（内訳：水位モニタリング機器×2台、給水・止水機器、通信親機）
 - ②屋外定点カメラ



▲機器設置位置図

スマホアプリで管理★

今後の遠隔通信に向けて

リモート参加をした4名より、フィードバック、及び意見を徴収。主に、動画のフリーズや、現場説明者の音声の不安定さなどが問題として挙げられました。これらの解消にはwi-fi環境の強化や現場説明者用の集音マイクの利用等が対策として考えられます。また、リモート参加は、現場の様子をリアルタイムで見られるメリットがある一方で、意識して双方にコミュニケーションを取らなければ、受動的になりがちであることが明らかになりました。そのため、双方向コミュニケーションの取り方について検討する必要があります。今後の遠隔通信の改善に繋がっていきたいと思います。

今後の予定

- ・6/19 社内にて「スマート農業勉強会」の開催
- ・6/19以降に、給水栓操作機、ソーラーパネル付き通信親機、屋外定点カメラを設置
- ・月2,3回のモニタリング実施